

## 研究成果報告書

研究テーマ (和文)	被災した農業・農村の復旧・復興を促進する農業ボランティア活動の体系化に関する研究		
研究テーマ (英文)	A Study on Enhancing the System of Agricultural Volunteer Activities to Promote the Recovery and Reconstruction of Disaster-Affected Agriculture and Rural Communities		
研究期間	2021年～2024年	研究機関名 九州大学 大学院 芸術工学研究院	
研究代表者	氏名	(漢字)	朝廣 和夫
		(カタカナ)	アサヒロ カズオ
		(英文)	Kazuo Asahiro
	所属機関・職名	九州大学芸術工学研究院環境設計部門・教授	
共同研究者 (計 2名) * 2名をこえる場合は、【別紙追加用紙】(P3)に3人目以降を追記してください。	氏名	(漢字)	齊藤 康則
		(カタカナ)	サイトウ ヤスノリ
		(英文)	Yasunori Saito
	所属機関・職名	東北学院大学経済学部共生社会経済学科・准教授	
	氏名	(漢字)	志水 健一郎
		(カタカナ)	シミズ ケンイチロウ
		(英文)	Kenichiro Shimizu
所属機関・職名	九州大学芸術工学府環境遺産デザインコース・博士課程学生		

## 概要

本研究は、東日本大震災以降、度重なる村落型災害の中で展開された「農業ボランティア」活動を対象とする。制度化されていないこの取組は、近年、各地の地震、豪雨災害の復旧期に地域住民、NPO、JA、被災自治体などによりボトムアップ的に展開されてきた。今回、事例の調査、比較検討することで農業ボランティア活動の理論化を図り、研究成果を書籍として取りまとめ、今後の災害における農業・農村の早期復旧、中長期的な振興に資することを目的とした。

研究方法は、共同研究者である齋藤氏との調査、打合せを重ね、各地の活動内容の要点、農業ボランティア活動の展開と課題の論点、論述に関する協議、そして、出版社を含めた書籍の編集・製作・印刷に関する打合せを重ねた。

調査は、令和元年東日本台風で被害を受けた長野県を対象に2021年12月15～18日かけて実施し、JA長野、長野市農業政策課、長沼地区の住民や農家などへのヒアリング、信濃川の破堤か所周辺の復旧状況を視察した。また、平成30年7月豪雨で被災した愛媛県宇和島市を対象に2022年4月25～26日にかけて、玉津柑橘倶楽部、JAえひめ南立間中央支所などでヒアリング、斜面のミカン園の復旧状況を視察した。その他、福岡県における九州北部豪雨被災地などの調査を行った。

オンライン・対面による打合せは、2021年11月から30数回実施した。当初の研究期間は2021年11月から1年と予定していた。しかしながら、追加調査と共に、書籍として取りまとめるという目標の中で、内容の質を確保するため、2025年3月まで延長を財団にお願いした。成果として、「農業ボランティア 災害列島をめぐる人・組織の復旧記録」として農山漁村文化協会から350頁の書籍として、2025年3月10日に出版することができた。内容は全9章で構成し、2010年代に発災した6つの災害と農業ボランティア活動、農業ボランティアの理論的整理、その活動の立上げ方を記述した。今後、この書籍を通じた活動の普及を進めていく。

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）					
雑誌	論文課題				
	著者名		雑誌名		
	ページ	～	発行年		巻号
雑誌	論文課題				
	著者名		雑誌名		
	ページ	～	発行年		巻号
雑誌	論文課題				
	著者名		雑誌名		
	ページ	～	発行年		巻号
図書	書名	農業ボランティア 災害列島をめぐる人・組織の復旧記録			
	著者名	齊藤 康則 ・ 朝廣 和夫			
	出版社	農文協	発行年	2025 年	総ページ 350 頁
図書	書名				
	著者名				
	出版社		発行年		総ページ

英文抄録

This research focuses on 'agricultural volunteer' activities that emerged during rural disasters in the 2010s. The aim was to theorize agricultural volunteer activities by investigating and comparing case studies, and to compile the research findings into a book.

The research method involved conducting surveys with co-researcher Dr. Yasunori Saito in Nagano Prefecture in 2021 and in Ehime Prefecture in 2022, as well as in disaster-affected areas in Fukuoka Prefecture. The research period extended from November 2021 to March 2025, involving over 30 meetings to discuss key aspects of activities in various regions, development and challenges of agricultural volunteer activities, content discussions, and coordination with publishers regarding book editing, production, and printing. As a result, on March 10, 2025, a book titled 'Agricultural Volunteers: Records of People and Organizations' Recovery Efforts Across Disaster-Prone Japan' was published by the Rural Culture Association. Going forward, we will promote these activities through this book.